開催地名：和歌山県串本町	
開催日時	令和 5 年 1 月 24 日（火）　18：00　～　19：30
開催場所	串本町役場
語り部	武藏野　美和　（岩手県陸前高田市）
参加者	自主防災会、防災士　52 名
開催経緯	串本町は南海トラフ巨大地震において、最短 3 分で最大で 17 メートルの津波が押し寄せると言われているが、中心街が低地に広がっていて多くの住民が津波浸水想定区域内に住んでおり、高齢者からは避難を諦めてしまう声も聞こえてきている。また、串本町は実際に大地震で被災した経験がなく、いずれ必ず起こると言われている大地震に対するイメージもなかなか湧いていない状況である。こうした状況下で本講演を開催することで、災害に対する意識を高め、地域の防災力を向上させる一助としたい。
内容	（1）震災発生時の陸前高田市について 私が住んでいるのは、岩手県陸前高田市という、人口約 1 万 8,000 人ほどの小さな市である。東日本大震災の前には、約 2 万 4,000 人の住民が暮らしていた。岩手県でありながら、伊達藩（宮城県）の文化を併せ持った文化を持つ特徴がある。岩手県の南部にあるので比較的温暖な地域で、陸前高田市の象徴とも言える白砂青松の高田松原は、市民はもとより県内外の来訪者からも愛される場所だった。海岸沿いに面した部分が少なく、市の中心に大きな川が通っており、かつて川から中州が生まれ、そうしてできた平野に人が住み始めたことで栄えた歴史があり、震災時は川の近くに市役所や図書館、学校といった主要な建物や住宅が集中していた。そして、残念ながら災害防止に繋がる対策は講じられていなかった。 （2）東日本大震災時の状況 2011 年 3 月 11 日の午後、マグニチュード 9.0 の大きな地震が発生した。陸前高田市の震度は 6 弱で、立っていることができないまま約 160 秒揺れ続けた長い地震だった。地震そのものより、しばらくしてからやってきた津波による被害が大きく、202 人の行方不明者を含む 1,757 人が犠牲となった。東日本大震災の死者の 95 パーセントが津波による溺死だと言われている。津波は、1896 年（明治 29 年）、1933 年（昭和 8 年）の三陸地震津波、1960 年（昭和 35 年）のチリ地震津波を凌ぐ大きなもので、甚大な被害をもたらした。津波の恐ろしさは、いろいろなものを破壊しながら、水が塊で襲ってくるところだ。地震発生から 40 分ほど経った頃、気仙川を火事のような煙と砂埃を上げながら津波が遡り、市役所や消防署などの公共施設は全壊した。 津波を予測して真っ先に高台や建物の屋上へ逃げた者は難を逃れたが、多くの市民が津波に遭遇し、巻き込まれて犠牲になった。子どもたちは学校で避難して無事でも、家にいた家族が津波に巻き込まれてしまったケースも多く、岩手県全体で 94 人、陸前高田市だけで 32 人の震災孤児も発生した。この経験を通して、私はひとりひとりが「災害が起きたらどう動くか」ということを常に考える意識が大切だと強く感じた。住んでいる場所や、置かれている状況を見て、どう避難するのが安全なのか、一人一人自分で考えることが大切である。また自宅が安全である場合には、備蓄を十分に準備することで避難は不要になる。ハンデのある人や意思の疎通が難しい人に、どのように避難経路や危険を伝えるか想定してみる。

	人によって最適な避難方法・できることは違うのだから、「自分はこうやる」という心意気が、災害発生時の安全な避難に備えることにつながるということを意識していただきたい。 （３）災害に対する心構え 　自分の命を奪ってしまうもの、自分や家族の笑顔を奪ってしまうもの、自分の大事なものを奪ってしまうもの、そのすべてが災害である。命や生活を脅かすものすべてを災害ととらえ、そして、これらの災害を防ぐことが「防災」だと意識してほしい。自分の大事なモノをなくさないように大切にすることも防災だと言える。 　そして、例えばハザードマップは安全を担保するものではなく、あくまでも災害時の目安となる資料に過ぎない。児童・生徒が安全に通行できるところはどこか、どのくらいの雨でここが冠水するか等々、生活に根付いた事象をしっかりと地域で共有していくことが重要になってくる。 　近年は地震や台風などの自然災害が増えてきていることから、非常時持ち出し袋を準備するなどして、１次防災や２次防災の備えをしている人は多いかと思うが、０時防災として、自分にとって大事なものを常に持ち歩くことが推奨されている。自宅でも好きなものをストックして、消費したら補充しておく。使いまわし、循環が備蓄につながる。 　防災講話で一度だけ知識を学んでも、忘れてしまうことがほとんどである。日頃から好きなお菓子を持ち歩いたり、新聞で皿を作ったりなど、生活の知恵そのものが防災につながるので、これらを『生活者の視点の防災』と呼んで大事にしてほしい。日頃から「万が一」を考え、自分にとって必要なものについては自分で備えることが、自分の命を守ることにつながる。
開催地より	経験者による具体的なお話しを聞くことで、災害の具体的なイメージをつかむことができたと思う。今日のお話しを受けて当市では、自主防災組織の運営に係る支援と、自主防災会や防災士の活動を後押しする講演会やイベント開催などの活動を積極的に推進していく所存である。